



めがねを、かけたりはずしたりすると、目が悪くなるの

めがねを、かけたりはずしたりすると、目が見つかる

目で物を見ることができるのは、目には、水晶体があり、そこを光が通って、目のおくにある、網膜に像を結ぶからです。水晶体は、だん力のある、凸レンズのような形をしています。毛様筋ののび縮みにより、水晶体の厚さは変わり、光の通り方を調節して、遠くのものでも、近くのものでも、見た物の像が、網膜にはっきりと映るようにしています。

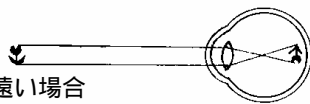
しかし、近視や遠視になると、眼球の形が変わってしまい、水晶体の厚さを変えるだけでは、光の通り方を調節することができず、見た物を、網膜にはっきりと映しだすことができなくなります。そのため、めがねをかけて、光の通り方を調節するのです。

しかし、あまりたびたび、めがねをかけたりはずしたりすると、そのたびに、目は光の通り方を調節しなければならず、つかれてしまうため、目が悪くなるといわれるのです。

近視や遠視の、めがねをかけるとよく見えるのは

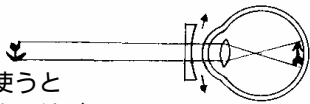
近視の人は、眼球のおくゆきが長いので、光の像が網膜の前の方で結び、見た物の形が、網膜にはっきり映りません。また、遠視の人は、眼球のおくゆきが短いので、光の像が網膜の後ろの方で結び、見た物の形が網膜にはっきり映りません。めがねをかけると、よく見えるのは、めがねのレンズを使って、見た物の像をはっきり網膜に映しだすことができるからです。（監修・保志 宏）

近視の目

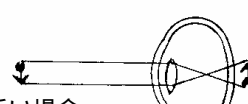


見るものが遠い場合
網膜の前方で像を結ぶ

凹レンズを使うと
網膜の上に像を結ぶ



遠視の目



見るものが近い場合
網膜の後方で像を結ぶ

凸レンズを使うと
網膜の上に像を結ぶ

